

大山隠岐国立公園の入口では、なだらかに傾斜した高原地帯、そして大山・蒜山高原の名高い山々が、観光客を迎え入れる。島根、岡山、鳥取の3県にわたり、多様な表情を見せる、69,410ヘクタールの景観が広がっている。大山隠岐国立公園は、1936年に大山国立公園の名称で開設された後、1963年、島根県の一部と蒜山高原を編入すべく拡大が行われたのち、現在の名称に改められた。蒜山地方には、山林、きれいな川、広大な草原といった、多様な生態系が存在する。そして、これらの生態系には、2つの固有植物種や、絶滅が危惧される多くの動植物が生息している。大山隠岐国立公園において、これらの種の限られた個体数を保持するための取り組みが実施されているためだ。この地方の人々は、景観から切り離すことのできない豊かな文化を育みながら、何世紀にもわたり、環境に馴染んで生活を営んでいる。

蒜山高原と「蒜山の三峰」（まとめて、蒜山三座として知られる）は、山口県東部から兵庫県西部まで広がる中国山地の一部である。隣接する大山の山並みと同じく、蒜山の山々は、火山噴火の繰り返しによって形成された。溶岩や噴火堆積物がドーム状に固まることで、各々の峰が作られた。標高の低い場所では、山腹はオークやクリの自然林で覆われているが、スギやヒノキの植樹地も点在している。斜面をのぼると、ブナやオークなどの落葉広葉樹が生え、山地に生育する希少な植物種の拠り所となっている。このエリア一帯では、毎年の野焼きにより、広範囲の草原が維持されている。この、古くから続く野焼きの慣行により、この地の絶滅危惧種の生息環境となる草原が保全されている。また、伝統工芸の材料となる植物の供給を安定的に確保することができる。

今日の蒜山高原は、ハイキング、キャンプ、サイクリングなどの野外活動を楽しめる保養地、行楽地として人気を博している。この地域は海拔500～600メートルに位置するため、通常、最も暑い夏の数か月でさえ、低い気温が維持されている。夏に訪れるにはもってこいの場所である。冷涼な気候と黒い火山性の土壌は、ブルーベリー、特有のワインブドウ種、その形の均一性が評価されての受賞歴があるダイコンなど、複数の農業特産物の生産を下支えしている。蒜山はまた、ゆるやかな起伏のある放牧地、ジャージー乳牛、そして、高品質の牛乳でも有名だ。

豊富な天然資源は、多くの地場産業に原材料を供給している。これには、郷原漆器（地場の材料のみを用いた漆器の様式の一つ）のようなユニークな伝統工芸も含まれている。器の木製の基材、そして、漆に加工される樹液はどちらも、蒜山で育った木から得られる。最終製品は、地域で採掘された珪藻土（珪藻と呼ばれるごく小さい植物性プランクトンの化石でできた、シリカを豊富に含む堆積物の層）で磨かれる。長年続く製材産業は、クロス・ラミネイテッド・ティンバー（CLT：複数のひき板を直交するように積み重ねて接着し、大きなパネルとすることで製造される）など、現代の技術を取り入れるべく、進化を遂げている。これらの環境にやさしいパネルは、標準的な製材と比較して、構造的安定性、耐熱性、汎用性が向上し、林業資源の効率的な活用を可能にする。

蒜山高原地域の、多様な表情を見せる美しい景観には、郷土の文化が深く刻まれている。歴史的には、山によって、蒜山の村は沿岸地域から切り離されてきた。しかし一方、山があることで、無形文

化財が保全されやすい環境となった。例えば、この地方の踊りである大宮踊は、千年以上昔の朝廷の踊りが起源と考えられている。この踊りは現在も、夏祭りの際に踊られている。